

# 大会開催のご案内

審査委員長 大條和雄

私は昭和二十年八月十五日の終戦を学徒勤労働員先の海軍三沢航空廠で迎えました。六月沖繩戦へ出撃する特攻機零戦を整備補修し、帽振れで見送りました。若い特攻隊員の合言葉は「靖国で会おう」でした。日本は敗戦でアメリカに占領され、私たちが聖戦と教えられていた大東亜戦争は太平洋戦争に変えられ、「日本は悪、アメリカは正義」という占領政策と葛藤し、自失のうちに旧制中学校を卒業しました。

昭和二十一年に入りますと便乗主義的教育者や民主主義者が出現し、いよいよ社会は混濁の度を深めていきました。私が白川軍八郎の独奏を聞いたのは秋の小栗山神社大祭の唄会でした。私にとってその演奏は特攻機零戦を見送ったときの鎮魂のノーベルメント (noble ment) = 高貴な音楽でした。この日のカルチャー衝撃から私の津軽三味線の歴史探求が始まりました。

「津軽三味線全国大会」が初めて開かれたのは昭和五十七年五月三日でした。弘前市の目玉観光事業の一つ、春の「桜まつり」行事の一環として弘前公園の野外特設ステージで旗揚げをしました。この頃、津軽三味線界は江戸時代を連想させる流派や家元制が出来ていました。大会提言者の私には流派を超えた開かれた日本の民俗音楽としての地位の定着と、それを裏付ける歴史学術書の出版という念願がありました。

私が津軽三味線の始祖は、安政四年金木町神原に生まれ、昭和三年神原で他界した仁太坊という男盲の三味線弾きであったという「絃魂津軽三味線」を陸奥新報に連載し、津軽三味線の歴史を初めて公に示しましたのは大会の翌年の五十八年でした。翌年単行本になると反響は津軽三味線界より学問の府、大学関係に広がりました。全国の各大学の学生が卒論に津軽三味線を書きたいという理由でひっきりなしに訪問を受けるようになり、私は大学から非常勤講師、客員教授に招かれるようになりました。

日本の伝統古典芸能、舞楽、文楽、能楽、歌舞伎などは一般社会から疎外された周辺社会から生まれたという歴史があり、それぞれその歴史を大切にしています。かつてホイド（乞食）三味線と蔑まれた坊様三味線には立派な歴史が存在していたのであり、その歴史を顕彰し、先人の霊を慰霊することによって津軽三味線の歴史（連続性）が継承される。それが津軽三味線の生命線であり、本大会に出場される皆さんは生命線の継続者であります。

金木大会には祖先崇拜の大会哲学があります。史蹟巡拝を二十一年続けて参りました。明治維新という近代国家の誕生によって封建時代には無かった新しい知的津軽三味線音楽が生まれました。地球的激動の2010年に生きる津軽三味線愛好家にとって最も必要なことは歴史を学ぶ心構えだと思います。

歴史を学ぶ本大会へ奮って参加されますようご案内申し上げます。

## 審 査 に つ い て

(本大会審査会より抜粋)

津軽三味線全日本金木大会は、一貫して「人真似でない自分の三味線を演奏すること」を求め、国籍、流派、門下にかかわりのない個性を評価してきました。この姿勢が若手の登竜門とされる本大会審査の特徴であり、津軽三味線ブームに一定の役割を果たしたと自負しております。

しかし、近年は芸能界における津軽三味線の多様なポテンシャルばかりが露出し、本来津軽三味線が津軽民謡の伴奏楽器であることをないがしろにする傾向が目立ちます。原点である津軽民謡を深く理解しなければ本物の味わいは生まれるはずもなく、日本の民俗音楽としての伝統も守れないのではないかと深く危惧するところです。

このことは、全国各地の大会審査においても共通した見解であろうかと思えます。ここが審査において重要な部分である事は本大会においても同じです。

近年は学校教育の場で津軽三味線の演奏が普及しつつあり、まことに喜ばしい事ですが、本来は唄の伝承と並行させ、唄と三味線が抱き合わせであることが原点を見つめ直すことにおいて理想的です。このことで間合いや撥付けといった審査部分も理解出来るし、曲弾きの個性的なアドリブ展開にも生きてくるのではないのでしょうか。

しかし、両面での指導者確保に難しさがあり理想とかみ合わない現実があります。

一例ですが、ここ金木町の NPO 法人かなぎ元気倶楽部では、一昨年より「津軽民謡チャレンジプログラム」を津軽三味線会館ホールで開催しており、高校生らによる三味線と太鼓の伴奏で幼児や老若男女が嬉々として津軽じょんから節や嘉瀬の奴踊りなどを合唱しております。本大会実行委員会ではこのような複合的な取組が各地で行われる事で津軽民謡と津軽三味線の原点回帰につながることを期待します。

本大会は津軽三味線発祥之地として、始祖「神原の仁太坊」の指導哲学にのっとり、総合的な技量と津軽民謡の理解度、そして困難に立ち向かう精神力を量ることを目的として、第 20 回記念大会より最高の実力を競う個人一般の部 A 級において勝抜き戦を実施致しております。今大会も A 級は迫真の「真剣勝負」が展開されることでしょう。

## 第22回 津軽三味線全日本金木大会 開催要綱

- 1 日 時 平成22年5月4・5日の2日間 午前9時より開始
- 2 場 所 青森県五所川原市金木町 金木公民館大ホール
- 3 種 目

<個人の部>	定数(人)
(1) 小学生以下の部	20
(2) 中高生の部	30
(3) シニアの部(60歳以上)	20
(4) 一般の部C級(習得年数5年未満60歳未満)	20
(5) 一般の部B級(習得年数5年以上60歳未満)	50
(6) 一般の部A級(習得年数を問わず60歳未満)	30
<団体の部>	定数(団体)
(1) 小学生以下の部(演奏者3人以上の団体)	5
(2) 中高生の部(演奏者3人以上の団体)	10
(3) 一般Bグループ(3人以上10人以下の団体)	10
(4) 一般Aグループ(11人以上の団体)	5
<b>注意事項</b> ・団体の申込人数については <u>大会当日の増員は認めません</u> 。(減員は可能) 流動的な場合は、あらかじめフルメンバーでお申込下さい。 受付期間内での増減の変更は可能ですのでお早めにご相談下さい。 ・ <u>団体へエントリーする際は一人一部門一グループ</u> とさせていただきます。 (掛け持ちの場合はグループが失格となります)	

#### 4 参加資格と定数

国籍・流派・門下・所属等は問いません。

地域振興のために参加希望者には可能な範囲で対応します。

#### 5 演奏規定(個人の部 小学生以下、中高生、シニア、一般B・C級) (団体の部 全部門)

##### (1) 演奏曲目

<個人の部>

自身が得意とする「津軽民謡の曲弾き」を一曲披露します。

<団体の部>

団体の部はオリジナル曲でも可とします。

##### (2) 演奏時間

<個人の部> 3分以内

<団体の部> 4分以内

##### (3) 出場順番

主催者において厳正に抽選します。(抽選はパソコンソフトで行います)

大会出場者には、4月中旬にプログラムを郵送致します。

## 6 演奏規定（個人の部 一般A級）

トーナメント方式による勝抜き戦です。

### （1）演奏曲目

- ・津軽五大民謡（じょんから・よされ・あいや・小原・三下がり）の中からラウンドごとに課題曲を発表します。  
各ラウンドの直前に客席からの抽選で課題曲を決定します。（重複無し）
- ・新節・旧節・中節・新旧節の選択については自由です。

### （2）出場順番

- ・当日受付においてトーナメント番号の抽選を行いますので、12時までにお越し下さい。
- ・前年ベスト8の選手は1回戦がシードされますが、シード枠も当日の受付で抽選にて決定致します。参加人数によっては他の選手も抽選で1回戦をシードされる場合があります。

### （3）審査方法

- ・一対一の曲弾き対決とし、審査員による勝敗の選択を電光掲示致します。
- ・トーナメントの進行状況は大型スクリーンで放映します。

## 7 申込み方法

### （1）申込先

〒037-0202 青森県五所川原市金木町朝日山 189-3  
津軽三味線会館内 津軽三味線全日本金木大会実行委員会  
電話 0173-54-1616 FAX 0173-54-1023

- ・メールでの申し込みも可能です。  
メールアドレス/syamisen@kanagi-gc.net
- ・要綱・申込書はホームページでも公開します。  
ホームページアドレス <http://www.kanagi-gc.net>

### （2）参加料（記念品を含む）

個人出場者・・・・・・・・・・ 3,500円  
団体出場者・・ 1人につき 2,000円

### （3）申込み方法

現金書留または銀行振込でお申込み下さい。  
銀行振込をご利用の方は、速やかに申込用紙をメールまたはFAXで送信して下さい。

○振込口座 青い森信用金庫 金木支店 普通預金 0166148  
津軽三味線全日本金木大会 ツガルシヤミセンゼンニホカキタイカイ

○現金書留ご利用の方

受領証が必要な場合は、返信用封筒（80円切手貼付）を同封して下さい。

### （4）申込み期間

平成22年2月1日～3月31日

期間外ならびに当日申込はお受けできません。

キャンセルの際の申込金は上記期間内であれば返金可能です。（手数料差引）

(5) 大会日程・競技順序・予定時刻

※各部門の定数を一人当たりの演奏時間で乗じた時間配分ですのでご了承ください。

< 1日目 / 5月4日 >

開会式	8時50分	10
1. 個人小学生以下	9時00分～10時00分頃	60
2. 個人中高生	10時10分～11時40分頃	90
結果発表・表彰式		
昼休み(アトラクション)		
3. 団体小学生以下	12時40分～13時00分頃	20
4. 団体中高生	13時00分～13時40分頃	40
5. 個人シニア	13時50分～14時50分頃	60
6. 個人一般C級	15時00分～16時00分頃	60
講評・結果発表・表彰式		
津軽三味線史跡巡り	16時40分～18時30分頃	110

< 2日目 / 5月5日 >

開始挨拶ほか	8時50分	10
1. 個人一般B級	9時00分～11時30分頃	150
昼休み(アトラクション)		
2. 団体一般Bグループ	12時30分～13時10分頃	40
3. 団体一般Aグループ	13時10分～13時30分頃	20
講評・結果発表・表彰式		
4. 個人一般A級	14時00分～16時30分頃	150
講評・結果発表・表彰式		
仁太坊賞受賞者再演	17時00分頃終了	

(6) 当日受付時間

午前8時00分から随時受け付けております。

各部門の予定時刻を参照の上、遅滞なくお願いします。

予定時間はあくまで目安です。

※当日のご連絡はこちらの携帯へ(携帯番号:090-1376-1737)

8 表彰

< 個人の部 >

各級共通・特別賞を含む8人まで表彰されます。

○1位から3位まで・・・賞状・トロフィーまたは楯・賞金

○入賞・・・・・・・・・・賞状

○大條和雄賞/特別賞

・ 個人・中高生・シニアの部/各2名・・・賞状・楯

・ 個人・一般の部B級/2名・・・賞状・楯

・ 個人・一般の部A級/4名・・・賞状・楯

○参加賞/参加者全員

仁太坊賞／個人一般の部A級優勝

津軽三味線の始祖、仁太坊にちなむ賞です。受賞者は「仁太坊まつり」においてゲスト奏者として演奏していただきます。（9月予定）

白川軍八郎賞／個人一般の部A級準優勝

金木町不動林出身、仁太坊最後の弟子、津軽三味線の神様と称される白川軍八郎にちなむ賞です。

黒川桃太郎賞／個人一般の部A級3位（2名）

金木町嘉瀬出身、始祖仁太坊の弟子、津軽民謡中興の祖、通称「嘉瀬の桃」にちなむ賞です。

大條和雄賞／特別賞

津軽三味線ルーツ解明者、大條和雄氏にちなむ賞です。

個人各級(小学生・C級を除く)の中からオープンで選出されます。

<団体の部>

各グループ共通で6組まで表彰されます。

○1位から3位まで・・・賞状・トロフィー・賞金

○入賞・・・・・・・・賞状

○参加賞／参加者全員

9 審査委員（予定）

審査委員長	大條和雄	（作家、津軽三味線ルーツ解明者）
審査委員	阿保敏秋	（弘前市立東部公民館 館長）
	工藤弘之	（東奥日報社 五所川原支局長）
	奈良岡松男	（陸奥新報社 五所川原支社長）
	成田 太	（財団法人日本民謡教会 青森竹泉津軽）
	荒関裕子	（箏曲演奏家）
	工藤信悟	（ギタリスト）

10 文化イベントのお知らせ／5月4日開催

津軽三味線史跡巡りバスツアーを開催致します。参加料は無料です。

時 間： 午後4時40分～

案内者： 大條和雄

内 容： 津軽三味線ゆかりの地を巡ります。

○金木公民館発

○川倉地蔵尊（供養祭）

川倉地蔵尊本堂において先達の供養祭と献花を行ないます。

○神原集落（仁太坊の里碑・仁太坊生誕百五十年記念碑）

○金木公民館着

申込み： バスの手配、出場申込書の下欄に記入または事務局へ電話連絡して下さい。

11 その他

当日のプログラムは50円の有料化となります。

本大会の運営継続にあたり、皆様のご理解とご協力をお願い致します。